

## 2023 安平町立早来学園開校

1. 安平町の紹介
2. 震災による学校の再建
3. 魅力ある義務教育学校の建設



北海道 安平町

# 1. 安平町の紹介



- ・新千歳空港：約20分
- ・苫小牧港：約30分
- ・札幌市内：約80分

- ・人口 7,352人 (R5.5末)
- ・世帯 4,022世帯





安平町

「ABIRA」のABは青い空、川をなだらかに広げる青い海を思い出す。あまのこころを、せむせむの空に送る。あまのこころを、せむせむの空に送る。あまのこころを、せむせむの空に送る。

旧「追分町」



旧「早来町」

平成18年3月 市町村合併  
旧「追分町」+旧「早来町」



「安平町」

- どちらも3,000人~4,000人程度
- 市街は、大きく2つ
- 昼夜間人口比率 105.9%  
全国で167位の高さ
- 近隣市町からの通勤者が多い



# 安平町の風景～馬がいる風景

これまで、数多くの名馬を輩出。どこまでも澄んだ青空の下、馬が自由に駆け回る。のどかで広大な牧場風景は町の自慢の風景。



# 安平町の風景～菜の花畑

- 大地に広がる黄色のパノラマ
- 初夏の菜の花畑は自然が作り出す素敵な風景
- 菜の花商品～なたね油、はちみつ、石鹼、キャンディー等

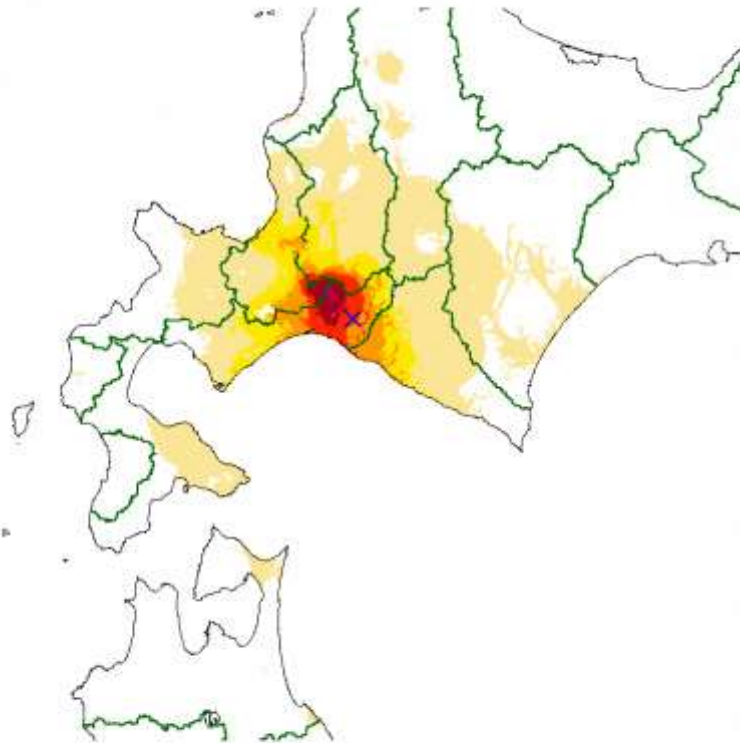


# 安平町の風景～S L・蒸気機関車

- ・ 鉄道のまちとして栄えた安平町は、全国の鉄道ファンの間でも有名
- ・ 道の駅に展示しているSLは、日本遺産 北の産業革命「炭鉄港」の構成文化財
- ・ SLは、元鉄道マンたちによって大切に管理され、大切な想いが受け継がれている。



# 平成30年北海道胆振東部地震について



(震源要素)  
平成30年09月06日 03時08分 胆振地方中東部 M6.7  
(情報時刻)  
平成30年09月06日 03時12分

震度 4 5弱 5強 6弱 6強 7

2018年09月06日03時08分 胆振地方中東部でM6.7  
気象庁ホームページより

- 平成30年9月6日 発生
- [激甚災害]  
安平町、むかわ町 震度6強  
厚真町 震度7
- 震度1以上 245回  
安平町で震度4以上9回  
(H30.9/6~11/11の間)
- 北海道内全域での停電(ブラックアウト)
- 安平町の電気が完全復旧したのは地震発生から12日後の9月18日
- 断水復旧は、地震発生から23日後の9月29日

# 2018年9月6日3時8分 北海道胆振東部地震 の発生

グラウンドへの被害



校舎への被害



# 北海道胆振東部地震の発生

## 体育館の被害



## 2. 学校の再建

# 学校再建の決断

- 地盤、校舎、体育館とも危険な早来中学校については何処かへ建て直すことを前提に協議開始
- 当面の間町民センターへ引っ越しする判断 → 仮設校舎建設 → 新校舎
- 教育委員会は、危険要素を取り除いた建設適地の確保、他の校舎の維持管理を見据えた再編を前提とした計画の策定等に着手
- ピンチをチャンスに！

# 公民館での授業再開(仮校舎)

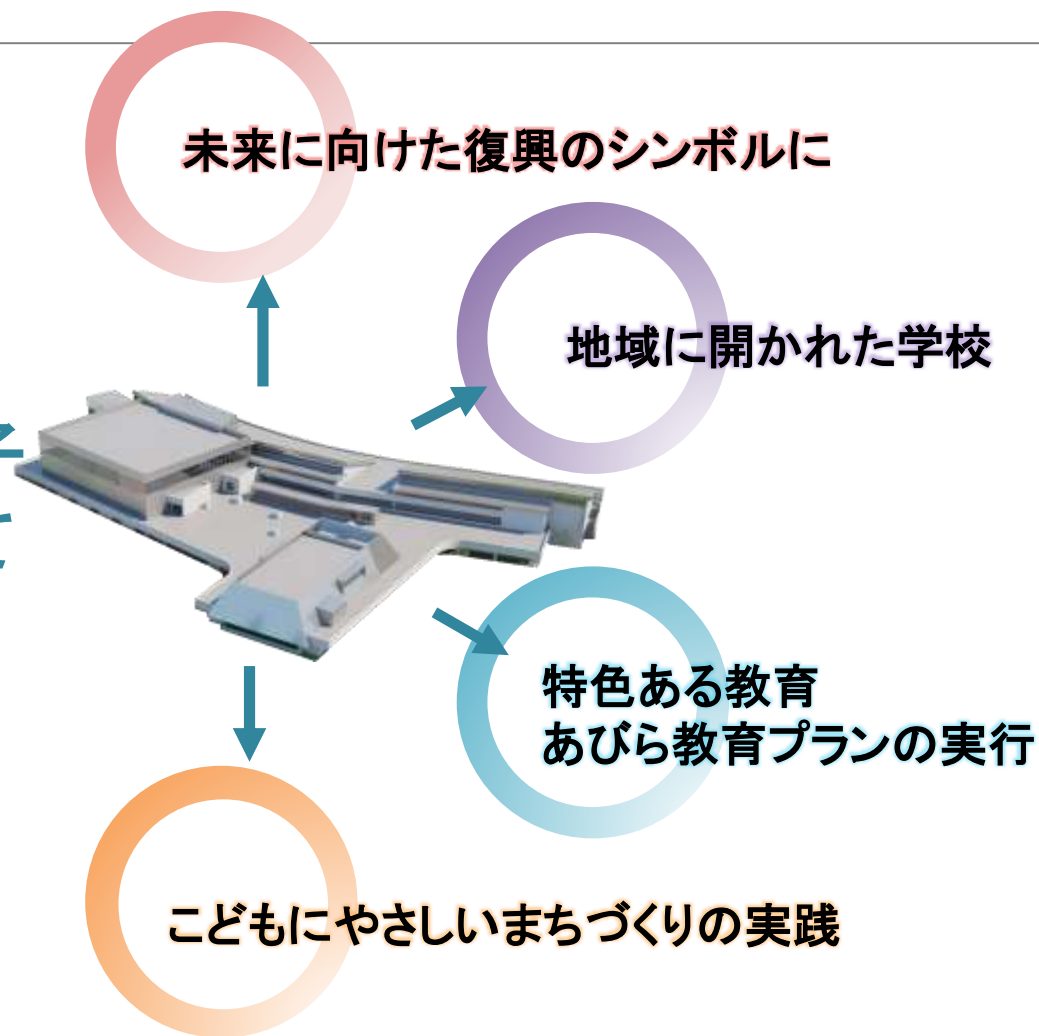


# 仮設校舎



# 学校再建に向けて

学校再建と特色ある取組みを連動させ、魅力ある子育て・教育の町を目指していきます。



## 教育環境計画の専門家集団

岩手県陸前高田市立気仙小学校  
 東京都板橋区立板橋第一小学校  
 板橋区立中台中学校、赤塚第二中学校  
 京都府同志社小学校・中学校高等学校  
 広島県立広島観智学園中学校高等学校

# 強力なチーム体制



教育環境計画

## 学校教育と社会教育の融合

安平町

コミュニティ・スクールの先進自治体  
 幼稚園から高校までC.Sを設置  
 社会教育主事配置の充実  
 新しい教育スタイルの展開  
 (遊育ーあびらぼーカイトク)



## アトリエ系の建築設計

東川小学校  
 東川町地域交流センター  
 二部谷アイヌ文化博物館  
 弟子屈中学校  
 黒松内中学校 (エコ改修)  
 札幌市立資生館小学校



アトリエブンク

建築設計

安平町



ICT環境設計

## ウルトラテクノロジスト集団

チームラボボーダレス (アート)  
 武雄市役所 (建築)  
 全日空システム (システム)  
 ※アーティスト、プログラマー、デザイナー、数学者、建築家などで構成されるスペシャリスト集団



# 早来中学校の校舎が使えない



案1) 同じ場所に改修か建替える？

⇒ 地盤に大きな被害がでた

案2) 別の場所に建てる？ ⇒ 市街地に広い町有地がない

案3) 小学校隣に建替える？ ⇒ 小学校グラウンドがなくなる



小学校隣地を取得し、老朽化する早来小学校と一体校舎新築



早来中学校 × 早来小学校

= 義務教育学校





## 学校再建に向けてへの第一の壁

- 安平町では小中一貫教育をH30年（H29年から試行）から追分地区で開始
- 定義や目標、基本方針は固まって始めていたことで取組の課題点等も実感していた。



- 学校や教育委員会は把握していた点を基に早来地区に導入を視野に進めた。

# 学校再建に向けてへの第一の壁

## 小中連携、小中一貫、小中一貫教育制度の関係

### 小中連携教育

小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

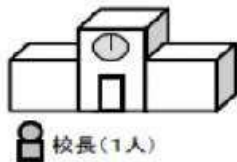
### 小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す教育

#### ①義務教育学校

・新たな学校種（一つの学校）  
⇒一人の校長、  
一つの教職員組織

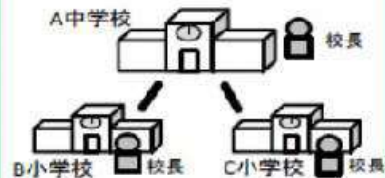
修業年限：9年  
（前期課程6年+後期課程3年）



#### 小中一貫型小学校・中学校

・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態  
⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

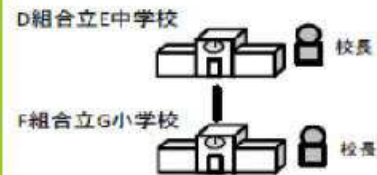
#### ②併設型小学校・中学校 （同一の設置者）



※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

- 例・総合調整を担う校長を定める
- ・学校運営協議会の合同設置
- 校長等6併任

#### ③連携型小学校・中学校 （異なる設置者）



※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

※①②③いずれも施設の形態は問わない。

# 幼小中教育が集まるエリア



# 3. 魅力ある義務教育学校の建設

# みんなで一から学校を考えた ～ 新しい学校を考える会

児童・生徒  
の会議参画

児童・生徒へ  
アンケート調査



考える会で考えたこと・・・

時代の変化を見据えて

これからの時代を生きる子どもの姿

これからも続く学校のあり方

# 新しい学校 コンセプト

自分が“世界”と出会う場所

## 新しい学校コンセプト

安平町の  
「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、支え、  
支えられる中で、  
学校を通して  
「スポーツ」「テクノロジー」や  
「異年齢、多世代」の人達、  
たくさんの「本物」と出会い、  
さらに  
「色々な考え」「多様な価値観」「多くの  
学び」  
「夢」とも出会い、  
“世界”に生き、  
“世界”へと羽ばたいていく

## 自分が“世界”と出会う場所





# 「自分が世界と出会う場所」

学校づくりのコンセプト

## ○学校づくりの目標 . . . みんなの学校を目指して

### 1 多様性の中で豊かな社会性を育てる環境づくり

郷土の文化・自然・人がつくりあげる多様な社会と出会うことができる  
地域住民・異学年・学校間・他国の子ども達との交流・対話・協同学習ができる。

### 2 学ぶ意欲を喚起し、創造力を高める環境づくり

教科の魅力を生かせる、魅力的な教材・ICT・IoTを継続的に享受できる。  
本物と出会い、学びが実社会とつながり「世界」と出会うことができる。

### 3 子どもが主役の学びの環境づくり

一人ひとりの個性に応じた学びの場、ともに高め合い、認め合える学びの場  
子どもが地域の一員、地域の主役として、町民とともに学びあえる場

### 4 9年間(15年間)の確かな成長を支える環境づくり

成長段階に応じた学習環境、成長が実感できる生活環境

学びの課程や履歴を踏まえ、ICT・IoTを活用した個と集団の学習支援

## 5 心地の良い、快適に過ごせる学校づくり

温かみのある校舎(木質化)、落ち着けるスケール感、郷土の文化・自然を感じ、安心して過ごせる環境

多様な居場所がある・居場所が見つかる・地域住民や保護者の居場所・交流場所がある。

## 6 まちのコミュニティーセンターとなる学校づくり - 学社融合

地域も使える(共用化) 施設計画・拠点・管理運営体制・システムづくり

地域の安全をみんなで支える防災拠点、避難所として機能する環境づくり

## 7 「チーム学校・チーム安平」づくり-地域の子どもは地域で育てる

先生同士、保護者・地域住民・ボランティアと学校の連携・協働を支援する環境づくり

安平ならではの教育資源・人材の発掘・登録・活用の仕組みづくり

## 8 安平町の未来を拓く学校づくり

地域から永く愛され、持続可能で長寿命な学び舎。

維持管理や社会環境の変化に対応できる施設

# 新しい学校 計画目標

1. 多様性の中で豊かな社会性を育てる環境づくり
2. 学ぶ意欲を喚起し、創造力を高める環境づくり
3. 子どもが主役の学びの環境づくり
4. 9年間の確かな成長を支える環境づくり
5. 心地の良い、快適に過ごせる学校づくり
6. まちのコミュニティセンターとなる学校づくり - 学社融合
7. 「チーム学校・チーム安平」 - 地域の子どもは地域で育てる
8. 安平町の未来を拓く学校づくり



## ポイント

○地域とのつながりの重要性 ○単なる復旧ではない

### 5.まなびの魅力を伝える教科教室

後期課程は各教科ごとの専用教室と生徒の居場所となるHB（ホームベース）からなります。教科専用教室は各教科の資料などが常時見て触ることができ、まなぶことの魅力を生徒に伝える場になります。HB（ホームベース）に隣接する教科教室は、各クラスのCR（クラスルーム）にもなります。

### 6.“世界”とつながる学校

どこでもいつでも誰とでもつながることが可能なICT技術を用いて、多様で共創的な授業ができる情報通信環境を整えます。

## 分けるから混ざるへ 同じから違うへ

混ざることで生まれる**共創**

違うからこそ**混ざる**

新しい学校は開放・共用・専用の3つのエリアから成り立っています。

- 開放エリアは地域の人も使うことができます。
- 共用エリアは学校が使っていないとき、地域の人も使うことができます。
- 専用エリアは学校が主に使い、利用者、場所、時間を限って地域の人も使うことができます。セキュリティラインをはっきりさせ、ICT技術を活用して学校・地域両方の人々が安全に使う学校とします。

ここにしかない隣人  
家族のような人々と

**1.学校の中心「みんなの図書室」**  
図書室が学校の中心になります。学校の専用エリア、地域の人々とシェアする共用エリアどちらにも接し、地域の人々もいつでも使うことができるエリアです。本を通じて人々の居場所と交流の場となります。

### 7.学校を象徴する共創空間の核

開放・共用・専用、それぞれの活動が透明なガラスを通して見ることができます。デジタルテクノロジーを使い、見えるけど分かれている。分かれているけど一緒にいる。つながれる。多様性が**共創**を生む、この学校を象徴する空間の核です。

### 4.なんでもできる大きな教室

前期課程の教室は通常の教室の約2倍の広さです。全員で、グループで、友達同士で**共創**的な授業が展開できます。自由にレイアウト可能な大きいです。

特別支援	4年CR	3年CR
------	------	------

### 3.教室をつなぐ光のプロムナード

ハイサイドライトから光が降り注ぐ空間です。9学年と特別教室を結び、授業や展示、活動が展開します。子どもたち同士が直接ふれあって**共創**的に学習する空間です。

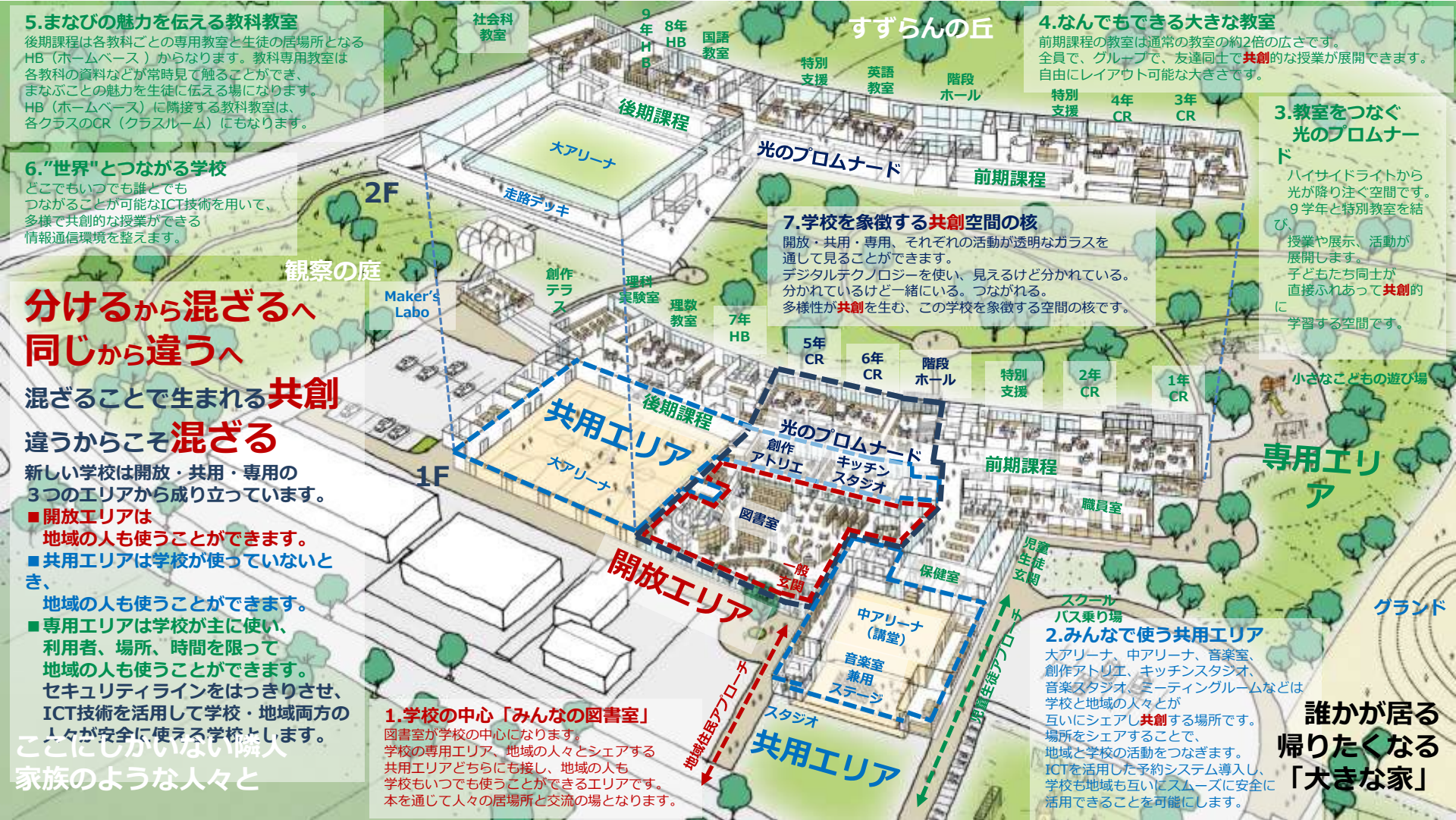
小さなこどもの遊び場

### 専用エリア

### 2.みんなですべて使う共用エリア

大アリーナ、中アリーナ、音楽室、創作アトリエ、キッチンスタジオ、音楽スタジオ、ミーティングルームなどは学校と地域の人々同士が互いにシェアし**共創**する場所です。場所をシェアすることで、地域と学校の活動をつなげます。ICTを活用した予約システム導入し、学校も地域も互いにスムーズに安全に活用できることを可能にします。

誰かが居る  
帰りたくなる  
「大きな家」



4層構成がもたらす  
共創へのきっかけ



ここにしかない隣人  
家族のような人々と



誰かが何かをやっている  
創作アトリエ キッチンスタジオ



誰かとかならず出会う  
児童生徒玄関



誰かがかならずいる  
まちのリビング  
分けるから混ざるへ  
共創空間の核

新しい学校のコンセプト

自分が“世界”と出会う場所  
学校を通して「夢」「本物」「地域」「社会」と出会う

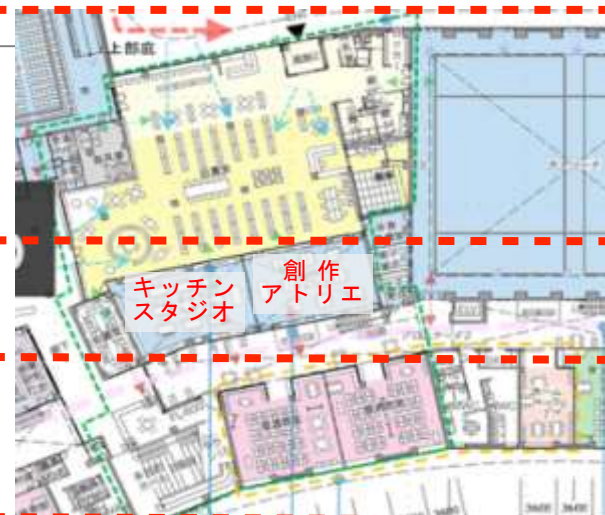


**地域と学校を分けない**

図書室  
(地域開放)

特別教室  
(地域開放)

普通教室  
教科教室



※教科専用教室を配置(英語室、数学室、社会室、国語室、理科室)

自らの頭で考え、  
仲間と協力し、  
最適解を見だし、  
地域や社会のために  
行動を起こす。

安平町生涯学習計画の重点

**子ども主体・子どもの社会参画を軸とした学校**

子どもを子ども扱いせず  
地域の一員として  
共に社会を生きる学校。



**地域や社会課題をテーマにした学習の実現を目指す！**

## 新しい学びに最適化された教育環境



IEE × Atelier BNK × チームラボによる共創空間デザイン

- 黒板はなくホワイトボードとプロジェクター（電子黒板）
- 一般的な学校の約2倍ある広さの普通教室と教科教室
- 学年によってデザインの異なる教室内空間（9年間の旅）
- 新しい学びに適応した学校家具
- アナログとデジタルが融合した学習環境（ICT活用と自然体験）

- 教員一人一台iPhone所有（生徒はiPad）
- 校務支援システム導入による教員の業務軽減
- 学校の施設開放はスマホから予約  
（音楽室、キッチン、アトリエ、アリーナ等を開放）

**安平町の未来（復興）は、  
教育がつくる。教育でつくる。**

スマートスクール実現に必須となる  
教室予約サイト



スマートスクールシステム(チームラボ)

# 義務教育学校設立組織図

## 義務教育学校設立運営会議

### 運営会議

- ◎全体調整
- ◎部会報告
- ◎全体に関わる検討
- ◎町としての方向性

教育委員会  
IEE

### 設計部会

- ・設計
- ・建築
- ・予算
- ・備品
- ・意匠内装

### ICT部会

- ・SSシステム
- ・校務支援
- ・サイネージ
- ・モニター
- ・ネットワーク

## 教育長

### 開校準備委員会

- ・早来小 ・早来中 ・(町教研) 部会長
- ・コムスク ・PTA
- ・つくる会 ・安平教育プラン

### 協議会(事務局)

教育委員会  
IEE  
学校長

### 新しい学校をつくる会

学校運営、地域開放

### 早来中学校区 小中一貫教育推進委員会

教育課程、学校運営



# 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告【概要】

1人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、新しい時代の学校施設の在り方を議論

## 第1章 新しい時代の学びの姿

### (1) 社会情勢の変化

- ⇒社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来
- ⇒新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

### (2) 「令和の日本型学校教育」の姿

- ⇒中央教育審議会において、新しい時代の初等中等教育の在り方を検討
- ⇒教育再生実行会議において、ポストコロナ期における新たな学びの在り方を検討

学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### (3) 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性

- ・新学習指導要領の着実な実施
- ・9年間を見通した義務教育の在り方
- ・学校における働き方改革の推進
- ・地域社会や関係機関等との連携・協働
- ・GIGAスクール構想、ICTの活用
- ・多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応
- ・少人数による指導体制の整備

## 第2章 学校施設の課題

### (1) 新しい時代の学びへの対応の必要性

- ポストコロナ時代における学校施設という実空間の役割**  
⇒児童生徒にとって安全・安心な居場所を提供するという福祉的機能、社会性・人間性を育む社会的機能を有するなどの学校の持つ役割・在り方を再認識  
⇒ポストコロナ時代において、子供たちがともに集い、学び、遊び、生活する学校施設という実空間の価値を捉え直す必要
- 学びのスタイルの変容への対応**  
⇒ICTの活用などにより、学級単位で一つの空間で一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイルだけでなく、学びのスタイルが多様に変容していく可能性が拡大  
⇒空間・時間を超えて、様々な学習リソースに非同期にアクセスして学ぶことができるなど「非同期・分散」した学びのスタイルが広がり、これまでの「同期・集合」した学びのスタイルと往還する場面が展開されていく可能性も拡大

### (2) ~ (4) 学校施設等における現状と課題

- ・これまでの学校施設の計画、教室面積、多目的スペース、空調設備の整備状況等
- ・防災・減災、国土強靱化、耐震対策・老朽化した施設の実態、維持管理等
- ・国・地方の財政状況、適正規模・適正配置等の実態、複合化・集約化の状況等

## 第3章 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）

### Schools for the Future

「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する

#### 「未来思考」の視点

- ① 学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという**固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す**。廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。
- ② 教室環境について、**単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点（柔軟性）**をもつ。
- ③ 紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、**画一的・固定的な姿から脱し、時代の变化、社会的な課題に対応していく視点（可変性）**をもつ。
- ④ どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、関係者が、**新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する**。

## 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）

### 【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

#### 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現

- ⇒ 1人1台端末環境等に対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教室環境の整備
- ⇒ 個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備
- ⇒ 教職員のコミュニケーション・リフレッシュの場（ラウンジ）、映像編集空間（スタジオ）の整備

（教室・教室周辺の空間の改善・充実に関する創意工夫の例）



1人1台端末環境等に対応したゆとり  
のある教室の整備



多目的スペースの活用による多様な  
学習活動への柔軟な対応



ロッカースペース等の配置の工夫等  
による教室空間の有効活用

学び



生活



共創



安全



環境



### 【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

#### 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現

- ⇒ 老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
- ⇒ 避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

#### 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

- ⇒ 屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進
- ⇒ 環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

全ての子供たちの可能性を引き出す、  
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学び舎として目指していく姿

「未来思考」をもった上で、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿を示す。

新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『学び』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として『生活』『共創』の空間を実現する。

また、新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として『安全』『環境』の確保を実現する。

## 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）

これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造していく

学び



単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

学び



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

学び



教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿

学び



映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿

生活



木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

共創



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

安全



長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿

環境



省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

## 第4章 学校設置者における推進方策

今後も増加する膨大な老朽化施設の現状等を踏まえ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に図る長寿命化改修等を積極的に推進していくことをはじめとした具体的な方策を提言

### (1) 長寿命化改修を通じた、新しい時代の学びを実現する教育環境向上と老朽化対策の一体的な推進

- 安全・安心な教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びを実現していくため、長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備を積極的に推進

### (2) 首長部局と協働した、中長期的視点からの計画的・効率的な整備の推進

- 教育委員会と、まちづくり部局や財政部局、環境部局、防災部局等の首長部局との横断的な検討体制を構築
- 中長期的な将来推計を踏まえ、計画的・効率的な施設整備を推進（将来変化に柔軟に対応できる施設、将来的な他用途への転用、複合化・共用化等）

### (3) 多様な整備手法等の活用と、施設整備と維持管理の着実な推進

- PPP/PFI手法を含め、民間活力を活用した施設整備・維持管理を積極的に推進
- 計画的に施設の点検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する「予防保全」型の管理へと転換

### (4) 学校関係者等の参画による豊かな学びの環境整備の推進

- 学校施設の計画・設計において、学校設置者と設計者だけでなく、新しい学びの担い手である学校の教職員など関係者が参画した施設づくりを促進、プロポーザル方式の導入推進等

## 第5章 国における推進方策

新しい時代の学びを実現する学校施設の整備を着実に進めるための具体的な方策を提言

### (1) 新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性（目標水準）の提示

- 2020年代を通じて目指す、新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性を目標水準として整理

### (2) 教育環境向上と老朽化対策の一体的整備の事例収集・分析

- 長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に整備している好事例について、ボトルネックとなる課題の解決策とあわせて積極的に周知

### (3) 学校施設整備のための財政支援制度の見直し・充実

- 安定的・継続的な予算確保
- 国庫補助単価を含めた財政支援制度の更なる見直し・充実

### (4) 新しい時代の学びを実現する学校施設整備の技術的支援の充実

- 学校施設整備・活用のためのプラットフォームを構築（事例・ノウハウの発信、専門家派遣等）
- 先導的モデル研究等を通じた新たな学校施設モデルの提示

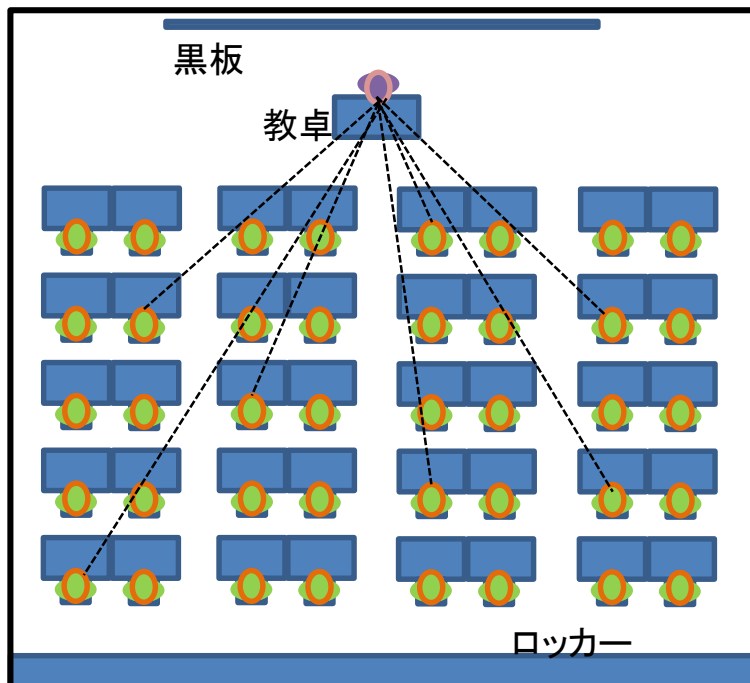
### (5) 学校施設整備指針の改訂

### (6) 普及啓発、適切なフォローアップと更なる調査研究等の実施

子供たちにとって「明日また行きたい学校」となるために、そこに集う人々にとっても「生き生きと輝く学校」となるために

## これまでの教室空間

- ・一斉指導(一方向に伝達する)に適した場  
=正面の黒板と教卓で教師の領域を強化

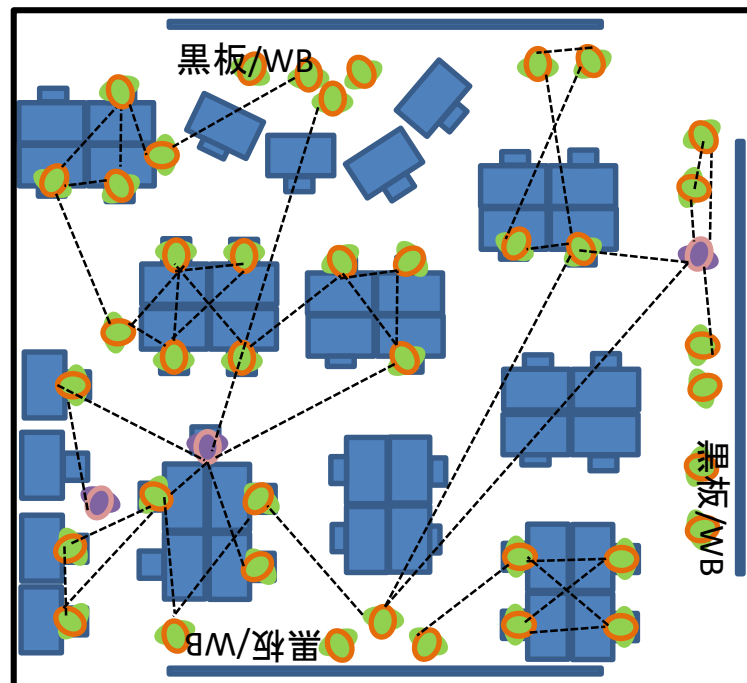


### 授業のかたち

- ・教師主導の授業、伝達中心
  - ・子どもたちは関わり合わない
- 「底辺のない三角形(小林宏己 早稲田大学教授)」

## 早来学園の教室空間

- ・学び合い、高め合える成長の場  
=黒板/WBは学び合いのツール

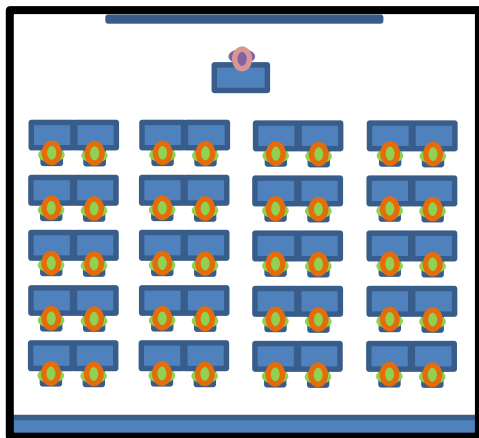


### 授業(学び)のかたち

- ・子どもたちが主役となる授業 関わり合いながら学ぶ
- ・教師は見取る/寄り添う/つなぐ/引き出す/取り残さない

## これまでの教室の広さ

- ・ $1.62\text{m}^2$ (一畳)/人  $\times$  40人(35人)以下 =  $65\text{m}^2$   
= 机でいっぱいのゆとりのない空間

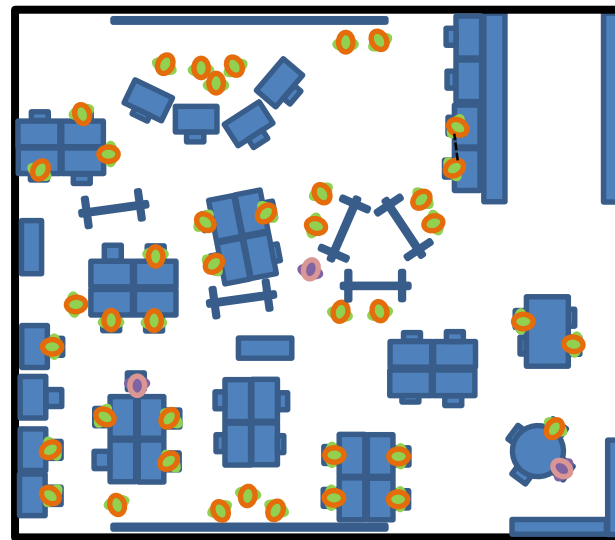


### 授業のかたち

- ・一人の授業者中心
- ・一通りの学び方
- ・固定的なグループ

## 早来学園の教室の広さ

- ・ $2.5\sim 3\text{m}^2$ /人  $\times$  40人前後 =  $90\sim 120\text{m}^2$   
= 自由度(場所の選択肢)がある空間



### 授業(学び)のかたち

- ・複数の授業者によるチームで行う授業
- ・学びの場所や学習材を選べる  $\rightarrow$  自分に合った学び方
- ・柔軟なグループづくり

- 低学年ルームと支援ルーム1は、低学年を担当する先生方が職員ルームに一番行き来しやすいように職員ルームの前に配置しました。
- 各ルームの間に扉を設け、直接行き来できるようにしています。
- 大きな方のルームは1年生を想定し、こども園とのつながりを考えて小上がりコーナーやフックが付いたランドセル棚を用意しています。

- 低学年ルーム
- 学年で教育活動が行えるように100㎡ほどの広さがあります。
- 壁面にはプロジェクターが付いたホワイトボード2面と黒板面があります。
- ホワイトボードの下には本や個人ファイル等が収納できる棚があります。
- 児童ロッカーはコーナーに設けています。
- 広い方のルームは階立としても使える移動式ランドセル棚を用意しています。

- 小上がりコーナー
- くつを脱いで寛まったり寛いだりできるように計画しています。

- 階段下倉庫
- 外用教材を保管できます。

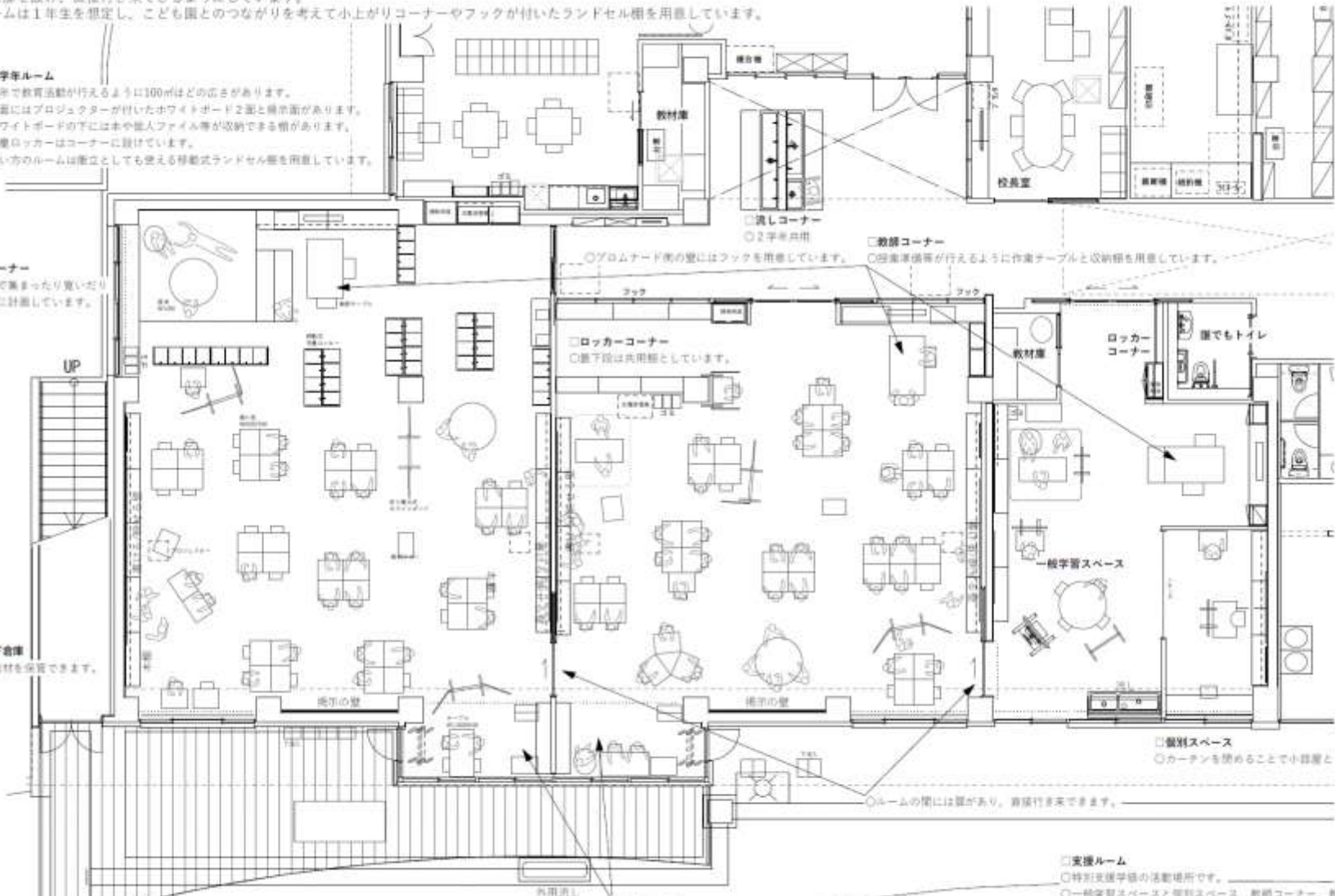
# 低学年ルーム

- テラス
- 教室前で外部活動ができるようにテラスを設けています。

- アルコーブ
- テラスの前室となります。個別スペースとしても利用できます。

- 支援ルーム
- 特別支援学級の活動場所です。
- 一般学習スペースと個別スペース、教師コーナー、教材庫があります。
- 出入口に子どもたちの持ち物ロッカーを用意しています。

案図



- 洗いコーナー
- 2学年共用

- 教師コーナー
- 授業準備等が行えるように作業テーブルと収納棚を用意しています。

- プロムナード側の壁にはフックを用意しています。

- ロッカーコーナー
- 廊下段は共用廊下としています。

- ロッカーコーナー
- 廊下段は共用廊下としています。

- 一般学習スペース

- 個別スペース
- カーテンを閉めることで小部屋としても利用できます。

- ルームの間には扉があり、直接行き来できます。

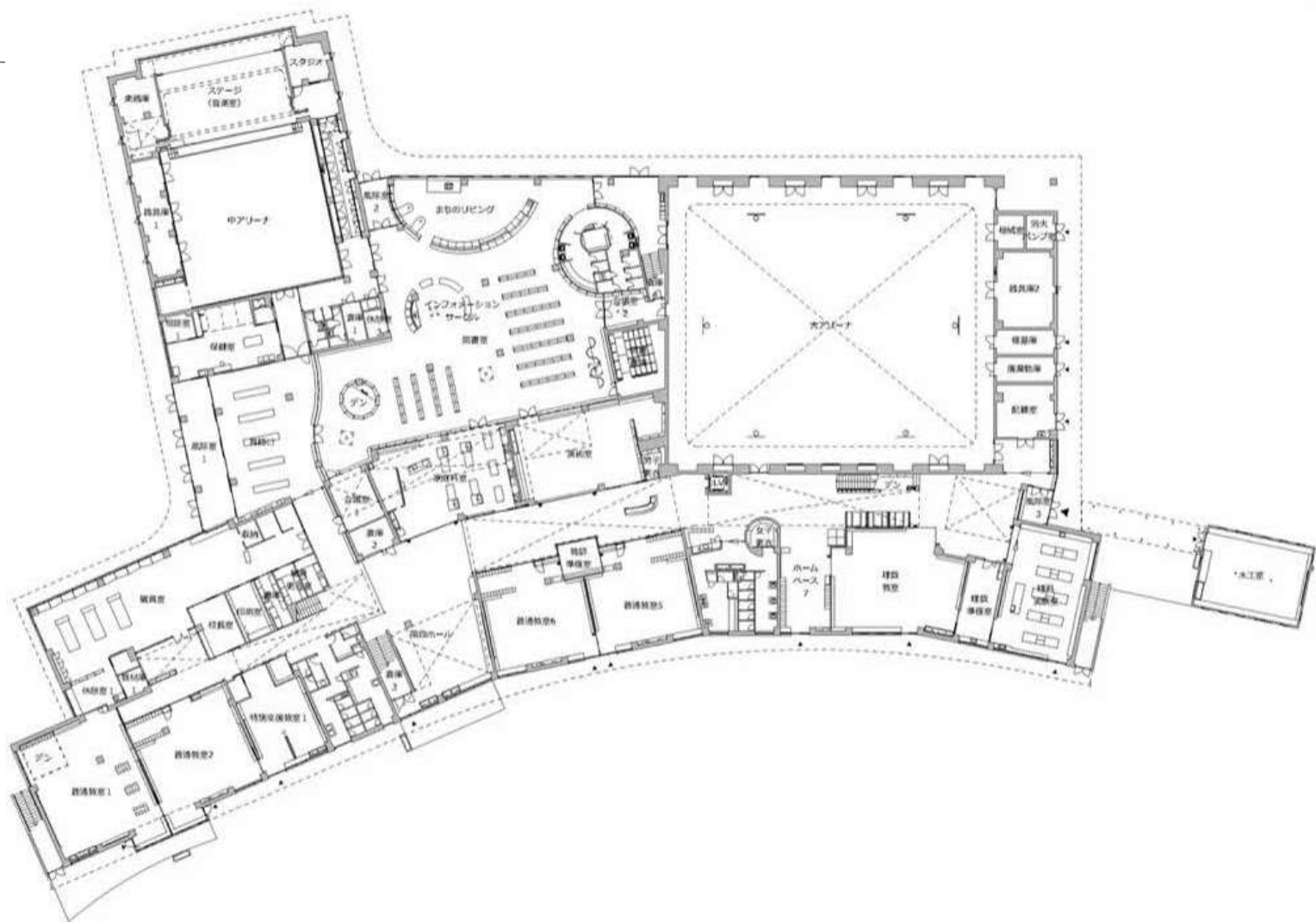
外用出し

指示の壁

指示の壁

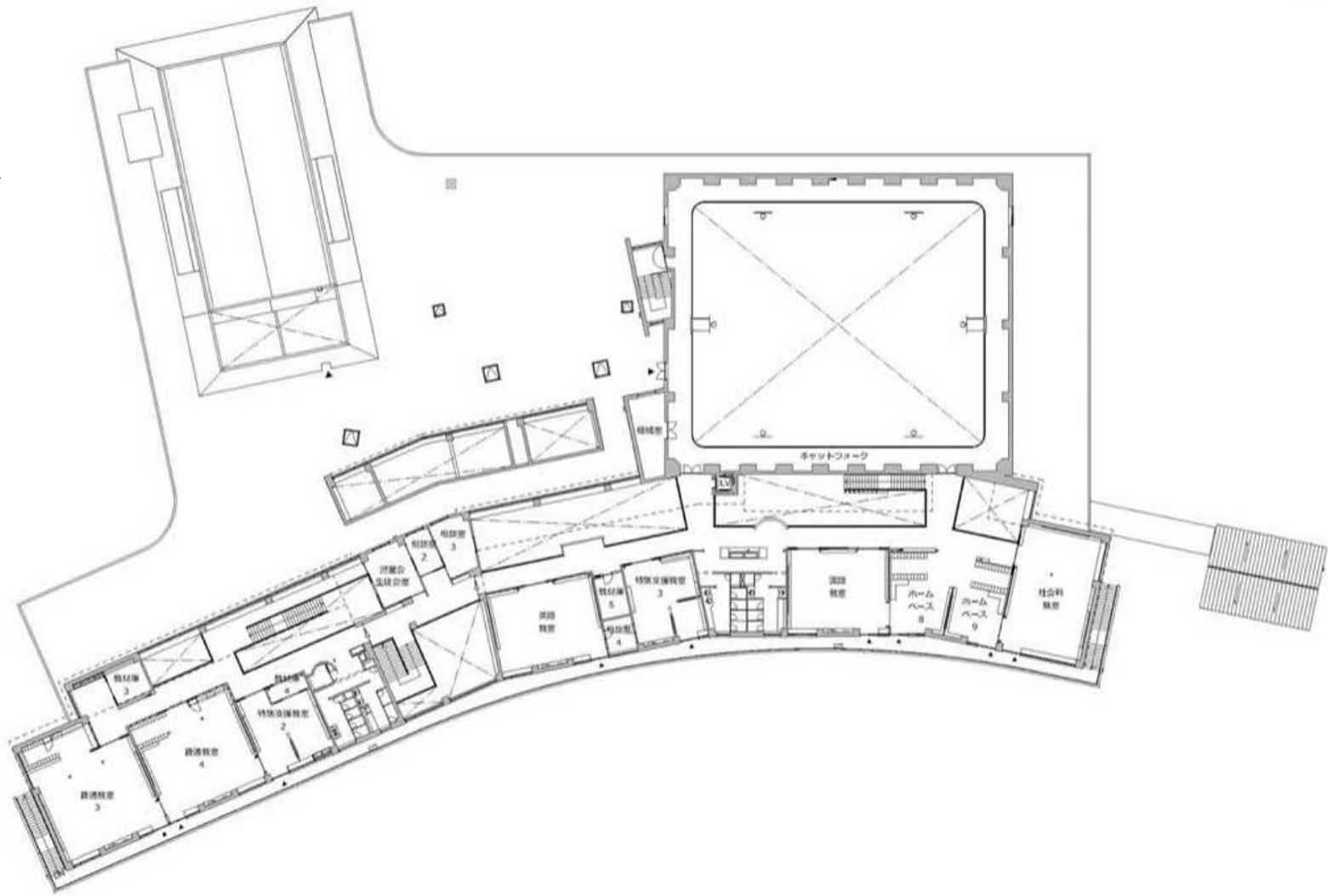
UP

# 学校施設の全容（1階）





# 学校施設の全容（2階）





令和4年10月完成  
早来学園(義務教育学校)

総床面積 7,083.04㎡





丘をのこし、  
小川を生かして  
配置する



観察の庭

Maker's  
Labo

菜園

すずらんの丘

すずらんの丘を抱き  
観察の庭とつながる

# 大アリーナ



# 中アリーナ・音楽室



# 図書室



# 図書室





# 「まなびお」 玄関



# 正面玄関



# 職員ホムム（室）



# 普通教室（1階）



# 普通教室（2階）



# キッチンスタジオ（調理室）



# 創作アトリエ（美術室）



# 工作室（技術室）





# 階段ホール



# 光のpromenade (廊下)





# 光のpromenade



# まとめ①

## ○義務教育学校 誕生

- ・令和5年4月安平町に新しい学校
- ・当たり前の学校を魅力アップし関心を持たす

## ○ピンチをチャンスに

- ・学校の環境を考え直す
- ・教師の負担を軽減させて教育に専念する
- ・令和の次の時代を、見据え、つくる

## まとめ②

---

○安平町の教育は、

子どもを分けない = 小×中(9年一貫教育)

子どもと大人を分けない = 学校×地域

○安平町の未来は、

**教育がつくる。教育でつくる。**



# 地域プロジェクトマネージャー (LPM) の導入に向けて

～ 安平町の最重要課題『子育て・教育』への対応

～



# 地域プロジェクトマネージャー (LPM) とは？

～ 総務省資料より抜粋

- 地方公共団体が重要プロジェクトを実施する際には、**外部専門人材、地域、行政、民間などが連携して取り組む**ことが不可欠
- しかし、そうした関係者間を橋渡ししつつプロジェクトをマネジメントできる「**ブリッジ人材**」が不足。
- そこで、市町村がそうした人材を「**地域プロジェクトマネージャー (LPM)**」として任用する制度を総務省が創設。
- 国では令和3年度から事業開始

# 地域プロジェクトマネージャー (LPM) とは？ ～ 総務省資料より抜粋

★ブリッジ人材が不在だと…

・コミュニケーション不足から混乱が生起、関係者がお互いに不信感



・せっかく外部専門人材を招へいできて孤立



⇒プロジェクトの実があがらない状態に

# 地域プロジェクトマネージャー（LPM） とは？ ～ 総務省資料より抜粋

★地域プロマネ任用により...  
・多様な関係者間を調整、橋渡し



・チームとしてプロジェクトを推進



⇒プロジェクトを着実に  
成果へつなげる！

## 地域プロジェクトマネージャーの創設

※令和3年度より

- 地方公共団体が重要プロジェクトを実施する際には、外部専門人材、地域、行政、民間などが連携して取り組むことが不可欠だが、そうした関係者間を橋渡ししつつプロジェクトをマネジメントできる「ブリッジ人材」が不足。そこで、市町村がそうした人材を「地域プロジェクトマネージャー」として任用する制度を創設。

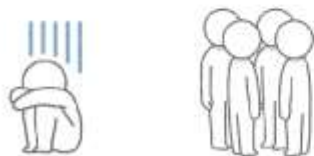
### イメージ

#### ★ブリッジ人材が不在だと...

- ・コミュニケーション不足から混乱が生じ、関係者がお互いに不信感



- ・せっかく外部専門人材を招へいできても孤立



⇒プロジェクトの実力があがらない状態に

#### ★地域プロマネ任用により...

- ・多様な関係者間を調整、橋渡し



- ・チームとしてプロジェクトを推進



⇒プロジェクトを着実に  
成果へつなげる！

### 制度概要

#### ★人物像

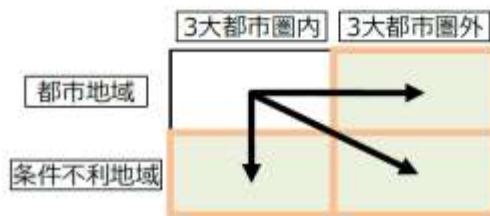
- ・地域の実情の理解、専門的な知識、仕事経験を通じた人脈、受入団体及び地域との信頼関係 etc
- ⇒地域おこし協力隊OB・OG、地域と関係の深い専門家 等

#### ★地方財政措置

- ・地域プロジェクトマネージャーの雇用に要する経費を対象に、650万円/人を上限に特別交付税措置
- ・1市町村あたり1人、1人あたり3年間を上限

#### ★地域要件

- ・3大都市圏内又は3大都市圏外都市地域から、条件不利地域へ住民票を異動（地域おこし協力隊と同様）
- ・ただし、現地の協力隊から任用される場合には移住は求めない



# 地域プロジェクトマネージャー（LPM）の 活用における留意事項 ～ 総務省資料より抜粋

- 生活の拠点を過疎/山村/離島/半島等以外の地域から移す必要がある。
- 住民票を移した先の地方自治体で任用する。※最大3年間
- 地域おこし協力隊OB・OGを必ずしも任用するものではない。
- 地方自治体における重要プロジェクトの存在を前提としている。
- マネジメント人材を確保するための採用要件定義を行うこと。
- 選任方法について、公平性/透明性を確保すること。
- ステークホルダーに対して、しっかりと丁寧に説明を行うこと。

# 総合計画 重要プロジェクト設定の背景

- 総合計画基本構想の設計にあたり住民アンケート調査やSWOT分析を実施
- 高年齢層からは「公共交通や医療」等が低評価、**20～40年代は「子育て・教育」に強い関心判明**
- 解決には、**限りある地域資源**を戦略的・重点的に投入する必要と判断
- 増えゆく**高齢者層を支えるためには、若い年齢層の力が不可欠**
- そこで、最重要プロジェクト（最重要課題）を『**子育て・教育**』として総合計画に明確に位置付けた。

# プロジェクトの概要（LPM想定職務）

## ① コミュニティスクール（CS）活性化

・学校の株主総会であるCS。株主の地域住民がより強く関わる体制へ

## ② 地域学校協働本部 設置準備→設置→運営

・CSの意見を実現する部隊。地域住民が主体の学校連携・協働へ

## ③ 義務教育学校運営支援

・産まれたばかりの若い学校。成長を支え地域の学校へ

## ④ 教員の働き方改革

・地域が学校を支える。教師が授業で勝負できる環境へ

## ⑤ CFCIの普及と実践

・子どもの社会参画。子どもたちの意見が当たり前で聴かれ、反映されるまちへ

## ⑥ その他子育て・教育に関すること

・特に未就学の領域など、LPM独自の推進課題の設定を可能とする。

# プロジェクトの定量的目標 (R5 KPI)

- プロジェクトチーム (PT) の立上げ 1 チーム
- 地域学校協働本部設置 1 本部
- 地域学校協働活動推進員の育成と任命 4 名以上
- CSへの参加 1 校以上
- 活動報告 12回/年 ※毎月、町HPにて公開



# プロジェクトの目的

## ・ 子育て・教育を核とした地域活性化

- ・働き方改革で先生の業務の余白を作り、やりたい！が実現できる働き甲斐のある安平へ
- ・子育て・教育の主体者として生き活きと子ども達を支える人々が溢れる安平へ
- ・子育て・教育分野でビジネスチャンスを掴むことができる安平へ
- ・こうした人々を支援し、信頼される町職員が集う安平へ

## ・ あびら教育プランをきっかけとした「社会に開かれた教育課程」の実現

- ・地域に密着した、地域なくして成し得ない安平らしさへ
- ・認知スキルのみならず、非認知スキルに着眼する安平らしさへ
- ・自分の世界を広げるための機会を提供してくれる安平らしさへ

これらの活動が、

『生涯学習・生涯教育の推進と実践』と『交流（関係）人口、定住人口の増加』をもたらし、  
『交流（関係）人口、定住人口の増加』をもたらし、

これらの活動は、CFCI  
(子ども参画)を土台とする！！

# 〔参考〕安平町が設置し地域PMが責任者となるPTの設置（参画）イメージ



- ・当町では、地域・行政・民間(専門家含む)に、さらに学校を加えることで、子育て・教育を核とした当町の戦略(特色)を色濃く反映させるものである。
- ・学校を設置する行政、学校を支える地域、各領域で事業推進力を持つ民間、そして教員自らが参画することで、自組織が取り巻く環境を見つめ直し、チャレンジし合う、支え合う体制を構築する。
- ・このPTを実質的にマネジメント(管理運営・橋渡し)していくのが、ブリッジ人材としての地域PMの役割である。

# 魅力的な「あびら」の学び

安平町では、「遊育」「学び」「挑戦・チャレンジ」という3つの事業によって全ての世代に教育機会を提供しています。教育プランでは、子どもから大人まで「豊かに生きるために挑戦する人」になることを応援しています。



# 魅力的な「あびら」の学び (令和4年度～)

■あびら教育プランが目指すところ  
「自らをアップ  
デートし続け、豊  
かな人生を送るこ  
とのできる子ども  
を育む」



# 魅力的な「あびら」の学び ～遊育事業～



- ・ 町内の森や自然探索等での「遊び」を通じて  
↓
- ・ 協調性、表現力という非認知能力や体力の向上  
を図りながら、子どもの心身を育むプログラム





## 魅力的な「あびら」の学び ～あびらぼ～

### 『あびらぼ』

- 学校とは違う学びの場で、  
知的好奇心や探究心を高めるプログラム
- いろんな世界観を通じて興味関心を広げ、  
自分の夢や目標に向かって踏み出せる場を  
創り出す取組み



(関心あるテーマを  
深掘する探究授業)



(いろんな世界観・大人に  
出会い興味関心を広げる)



(空港で海外からの  
来道客へインタビュー)





# 魅力的な「あびら」の学び **～カイク事業～**

クラウドファンディングによる外部資金調達や町民チャレンジの応援を主眼として、町民が主体となり行うプロジェクトに対してコーディネートやサポートを行いながら、町民のチャレンジを応援する。



(野球少年団 室内練習場)



(復興ボランティアセンターによる 未来への町の入口となる素敵なコミュニティスペースを整備)

## 『キミ旅』 子どもたちが作る海外実習プログラム



# 魅力的な「あびら」の学び ～ワクワク研究所～



カイトク事業の中で「子どもたちの主体的な挑戦を応援する取り組み」として始まったもの。

自分のやりたいことをプロジェクトに落とし込み最後にプロジェクト発表会を実施。

### ワクワク研究所ってなに？

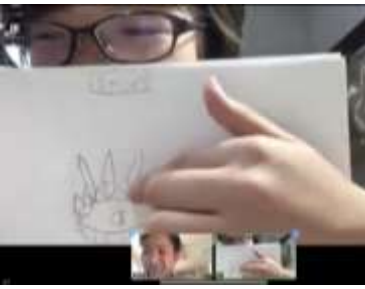
子どもたちが自分自身の興味関心に基づいてワクワクするプロジェクトをつくり、実践する。そんな子どもの探究活動をサポートする教室です。

- 1 プロジェクトづくり**  
プロジェクトの作り方からレクチャー！自分だけの進捗一冊日記マイプロジェクトをつくります。
- 2 プロジェクト準備**  
プロジェクトのためには準備が大事！準備スケジュールを作って、資金を集めたり、道具をそろえたりします。
- 3 プロジェクト実施**  
いよいよ開始！作る、測る、実験する、食べる、出る、履きに行く、会ってみる、イベントをする。さまざまなプロジェクトが生まれます。

スタッフが伴奏



休講の際にオンライン面談 ※オンライン伴奏を模索



第1期7/31に成果発表





# 魅力的な「あびら」の学び ～ワクワク研究所～



カイトク事業の中で「子どもたちの主体的な挑戦を応援する取り組み」として始まったもの。

自分のやりたいことをプロジェクトに落とし込み最後にプロジェクト発表会を実施。

## ワクワク研究所ってなに？

子どもたちが自分自身の興味関心に基づいてワクワクするプロジェクトをつくり、実践する。そんな子どもの探究活動をサポートする教室です。

- 1 プロジェクトづくり**

プロジェクトの作り方からレクチャー！自分だけの世界一面白いマイプロジェクトをつくります。
- 2 プロジェクト準備**

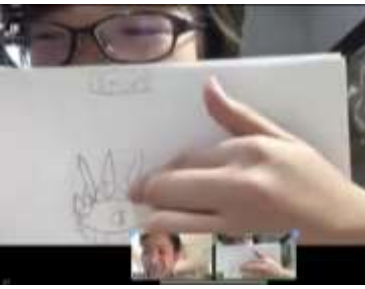
プロジェクトのためには準備が大事！準備スケジュールを作って、資金を集めたり、道具をそろえたりします。
- 3 プロジェクト実施**

いよいよ開始！作る、測る、実験する、食べる、出る、履きに行く、会ってみる、イベントをする。さまざまなプロジェクトが生まれます。

スタッフが伴奏



休講の際にオンライン面談 ※オンライン伴奏を模索



第1期7/31に成果発表

